



はじめのいっぽ

令和3年度
7月号

令和3年6月30日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

二度目のコロナ禍の夏がやって来ます。
手洗いをしっかりする事、マスクを上手に付ける事が当たり前の習慣になりました。
夏ならではの水遊びを工夫しながら楽しみたいと思います。
自然の力はすごいと感じる日々です。ツバメは七回目の里帰り、
4棟目の巣作りが完成しました。
夏野菜は梅雨の間の晴れ間において陽を浴び大きく成長しています。
子ども達は畑を毎日見ながら「いつ？食べる」「大きくなった！」「色付いてきた」と
口々に話し、じっくりと見えています。
ワクチン接種が全国で本格的に始まりました。
職員においても夏の間にも二回目接種終了を目指しています。
一日も早く、安心・安全を手に入れ、皆での会話を楽しみたいと思います。



～ アドラー より ～

失敗した場合にも勇気づけよう

1.失敗は不適切な行動ではありません

よい意図をもって、あるいはすくなくとも悪い意図をもたないで行動したのに、たまたま結果がうまくいかなかったことを〈失敗〉といいます。〈不適切な行動〉は、多かれ少なかれ、親を困らせることを目的にしていますので、そういう点で〈失敗〉とは違ってきます。失敗の結果、親は困るかもしれませんが、子どもは「親を困らせてやろう」という目的で失敗したわけではありません。親は迷惑をかけられたかもしれませんが、そのために感情的になってしまえば、子どもを勇気づける力を失ってしまいます。

2.子どもは失敗を通じて成長する

子どもが失敗したとき、その失敗をとがめたり、批判したり、罰したりしたらどうなるのでしょうか。子どもは、「私には能力がないんだ」と感じて、自分の課題に自分の力でとりくむ勇気をくじかれてしまい、臆病になってしまうかもしれません。あるいは、「親は私の仲間じゃない」と、親に対して不信感を持ってしまうかもしれません。

失敗は成長するためのチャンスなのです。子どもは失敗から学びます。子どもが失敗したときこそ、じゅうぶんに勇気づけてあげましょう。そのためには、まず、子どもの話をじっくりと聴いてみることです。そうして、失敗したために、子どもががっかりしていたり、動揺していたり、自分に腹を立てていたりすることを理解してあげましょう。親は子どもの味方、子どもの仲間なんですから。

3.子どものよい意図や努力をみつけだそう

子どもはよい意図で行動したのに、結果がうまくいかなかったのです。もし子どもを勇気づけようとするならば、結果に注目せずに、よい意図や、努力や、チャレンジする姿勢などに焦点をあてましょう。そうすれば勇気づけは難しくありません。

さらに、失敗によっておこった損害などを、どのようにして回復すればいいか、今後同じ失敗をくり返さないためにはどうすればいいかを、冷静に話し合みましょう。また、迷惑をかけた人がおれば、あやまるように提案してみるのもいいでしょう。ただし、これは、親子関係が良ければの話で、子どもが親を仲間だと思っていないときに、「どうして後始末をするのよ」とか、「あやまりなさい」と言うと、子どもは怒るかもしれません。